

⑤ 御前山

那珂川大橋のすぐ上流、那珂川右岸に望む標高 175m の御前山は、その美しい景観より茨城百景の 1 つにも数えられ、「関東の^{あらしやま}嵐山」と呼ばれている。御前山一帯は、御前山県立自然公園に指定されており、変化に富んだ地形が豊富な植物や動物相を擁している。江戸時代には、山林の伐採が禁じられていたため、今でもアラカシ、シラカシ、ウラジロガシなどの照葉樹がうっそうと生い茂り、ヒカゲツツジなどの暖地性の樹木も見られる。春になると、遊歩道に沿ってカタクリ、イチリンソウ、ニリンソウなどが明るい林内のあちこちに見られる。

御前山は、アオバセセリ、ミヤマカラスアゲハ、ムラサキシジミ、ヒオドシチョウ、シロオビナカボソタマムシ、キスジトラカミキリなどの生息地になっている。夏になるとマツ、ヒノキなどの針葉樹林ではチッチゼミの声をきくことができる。

また、御前山は鳥獣保護区に指定され、さまざまな野鳥が観察できる場所である。5 月頃にはいろいろな野鳥が見られる。キジ、ヤマドリ、フクロウ、ノスリ、イカル、カッコウ、アカゲラなどの姿や声に触れることができる。秋になると冬鳥のベニマシコ、カシラダカ、ツグミヤ、低地に降りてきたハイタカが見られる。

御前山一帯はイノシシが多いことで有名である。地面を掘り起こした跡や足跡などが見られる。またその他、タヌキ、キツネ、アナグマ、イタチ、テン、ノウサギ、リスなどが生息しており、ホンドリスには割合よく出会うといわれる。

御前山付近の那珂川ではボウズハゼが見られ、那珂川の分布は北限に近い。また、御前山付近の河原は様々な水辺の鳥の繁殖地にもなっており、河原ではコアジサシや、カワセミの美しい姿も見られる。



イチリンソウ(キンポウゲ科)
(写真：榎日水コン)



ニリンソウ(キンポウゲ科)
(写真：榎日水コン)

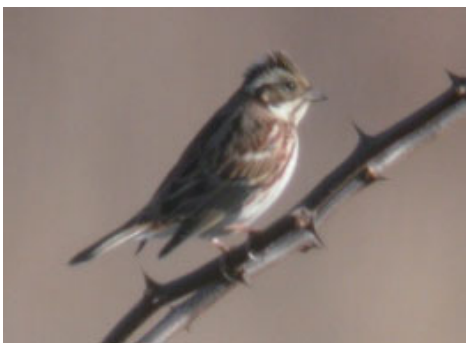
図 4-41 御前山の春植物



ツグミ (ツグミ科)

(写真: 梶日水コン)

冬鳥。秋になると農耕地でもよく見られるムクドリ
 くらいの鳥。雌雄ほぼ同色。木の実や昆虫を食べる。
 地鳴きは「キィーキッキ」「キョツ、キョツ」「チ
 リーッ」など。



カシラダカ (ホオジロ科)



ボウズハゼ (ハゼ科)

(写真: 稲葉 修氏)

図 4-42 御前山周辺の生物

御前山の南麓を流れる皇都川^{こうとがわ}は、御前山の奥から流れ出て、赤沢で那珂川に注いでいる。山中の溪流には、トビケラ、カゲロウ類といった水生昆虫が多く生息している。また、「生きた化石」といわれるムカシトンボの生息地として知られている。同じく「生きた化石」といわれるムカシヤンマもこの地で見られる。

植物ではエビネ、ジガバチソウ、ミヤマウズラ、カキランなどのランの仲間や、ヤブミョウガ、コバギボウシ、ウバユリ、カタクリ、タチドコロなどが生育している。



カキラン (ラン科)

(写真: 梶日水コン)



ムカシトンボ (ムカシトンボ科)

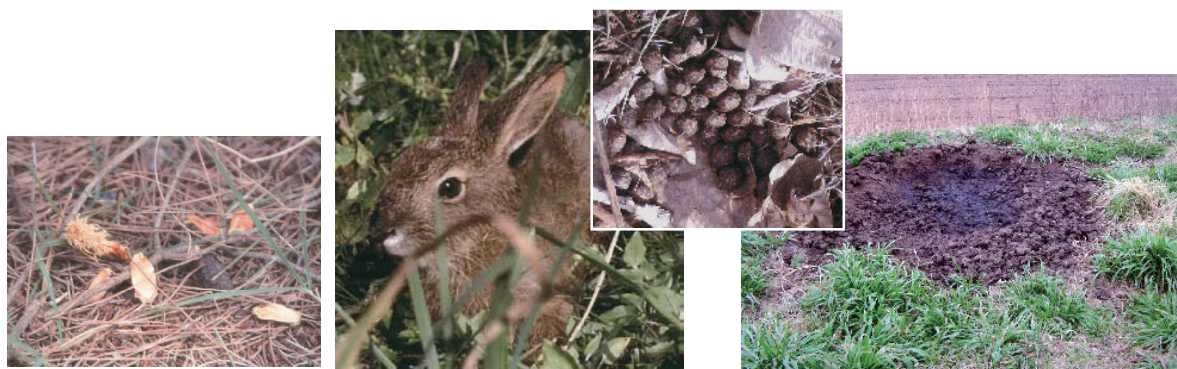
(写真: 小菅 次男氏)



ムカシヤンマ (ムカシヤンマ科)

(写真: 小菅 次男氏)

図 4-43 皇都川の生物



リスの食痕 ノウサギ（ウサギ科）上：ノウサギの糞 イノシシのぬた場

(写真：小菅 次男氏)

図 4-44 御前山周辺の動物

タンポヤンマタケ

トンボ目に発生する珍しい冬虫夏草（虫から生じるキノコ）であるタンポヤンマタケが御前山で確認されている。平成6年度（1994）の冬季に、染谷保氏が御前山山麓の皇都川，井殿山山麓の相川で観察した報告（『おけら NO. 59』）によると、ヤンマタケ類が発生したトンボ類のなかに、国内初と思われるタンポヤンマタケが2個体あった。皇都川において寄生されていたトンボ類は、ミルンヤンマ，ナツアカネ，ノシメトンボ，マユタテアカネであった。



タンポヤンマタケ（スチルペラ科）

(写真：染谷 保氏)

チスジノリ

日本特産の淡水藻チスジノリは，九州の熊本県，鹿児島県の河川で発見され，両県の霧島火山系の河川の生育地は，国の天然記念物に指定されている。また，環境省のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。平成12年（2000），相川合流点付近で見つかった。

チスジノリは河川に生育する淡水産の紅藻で，紫色で円柱状に長さ30～120cmほどになる。



チスジノリ（チスジノリ科）

(写真：今井 初太郎氏)